



平成30年元旦

社会医学系専門医協会

社会医学系専門医協会 関係の皆様
あけましておめでとございます。
新しい年が皆様にとりまして
幸多き年となりますよう
心よりお祈り申し上げます。
本年もよろしくお願いいたします。

理事長よりの ご挨拶

年始にあたって

うだ ひでのり
宇田 英典

社会医学系専門医協会理事長
全国保健所長会会長
鹿児島県伊集院保健所長



新年明けましておめでとうございます。2019年
が皆様にとって素晴らしい一年になりますよう、心
から祈念しております。

さて当協会は2016年12月5日に、日本衛生学
会、日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会、日本疫
学会、日本医療・病院管理学会、日本医療情報学会、
日本集団災害医学会、全国保健所長会、地方衛生研
究所全国協議会、全国衛生部長会、全国機関衛生学
公衆衛生学教育協議会と日本医師会の12の学会・
団体の皆様の参加をいただき一般社団法人として
認可されました。

現在(2017年末)では、日本医学会連合、日本
職業・災害医学会も加わり、14学会・団体で構成さ
れる協会として、約2,500人の指導医・専門医と63
の認定プログラムの下で2017年4月から専攻医の
研修を始めています。これまで以上に、これからが
とても大切な時期と認識しております。

2014年5月に臨床系専門医の育成と認定を統一

的に扱う一般社団法人専門医機構が設置され、この
領域における専門医への社会的関心が高まっていた
のとほぼ同じ頃、社会医学系分野のいくつかの学
会や団体においても、個別に専門医制度の重要性や
必要性が議論され始めていました。

そのようななか、現在の協会設立の母体になった
6学会4団体が集まり、「社会医学領域の専門制度
確立について」の共同提言がまとめられたのは翌年
の2015年6月のことでした。1月後の7月には共
同提言の作成に参加したこれらの学会・団体と有力
機関の代表数十人が、保健医療科学院に集まり、制
度設計に関して集中的、熱心、寛容な議論が行われ
ました。暑い盛りの合宿でした。個別の学会単位で
はなく、複数の構成学会・団体で共通した単一の専
門医を育成し認定する現体系の合意形成がなされ
たのは、まさにこの場、この時だったと言えます。

その後、熱心に作業を行い社会医学系専門医の育
成と認定を統一的に扱う任意団体である社会医学
系専門医協議会が同年9月11日に発足し、同年12

月5日には一般社団法人社会医学系専門医協会として法人化されることになりました。

基本的考え方、専門医制度に関する周知方法、制度に関するQ&A等の検討・作成、専門研修プログラム整備基準の作成、専門医・指導医の認定基準の作成、法人化に向けた作業と法人化以降の専攻医の受け入れ準備等の本協会の体制構築が、急ピッチで行われました。

法人化以降は、研修プログラムの認定・登録、専門医・指導医の認定・登録、認定者への通知・認定証の発行、基本プログラム講習会の開催、更新プログラムの作成、統括責任者連絡協議会の開催、協会の運営に関する様々な規程等の作成・整理、協会の周知に関するニュースレターの定期的発刊、協会の顔となるロゴマークの作成といった協会の体制整備を進めています。

社会医学、衛生学、公衆衛生学といったわが国の社会医学の基盤をなす14の学会・団体が、それぞれの有する特性を生かしながら、目的を共有し、共通の制度として育てていただいている現状はこれからの様々な公衆衛生的課題に対応できる大きな力として期待できると感じています。社会医学系の各分野で活躍されているリーダーの皆さまの思いが詰まっている制度でもあると思っています。

副理事長よりの ご挨拶

社会医学系専門医制度の充実に向けて

いまなか ゆういち
 今中 雄一

社会医学系専門医協会副理事長
 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野教授



社会医学系専門医制度が走り出し、年末、年始には全国の各研修プログラムの情報交換会が開催されています。先日の会議では、具体的な取り組みが紹介されとても熱意のこもった意見交換がなされ、大変参考になり刺激になるものでした。近くそれらの情報も公開されていく予定です。

当社会医学系専門医制度は、下記を目指すものと考えられます。

- 社会医学系医師の人材育成過程を見える化して体系化を進めること
- 全国そして各地で、関係者が連携を強め教育資

とりわけ、熱心に活動していただいております総務、会計、広報の業務執行理事の先生方、企画調整委員会、専門医・指導医認定委員会、研修プログラム認定委員会の委員長を始めとする委員の先生方、また構想の段階から力を尽くして下さいました多くの先生方のお力なくして、本協会はこちらに至っていないと心から感謝申し上げます。

しかしながら、本制度はまだ始まったばかりです。本協会の基本的姿勢に示されているように、国民に信頼され、医療および公衆衛生の向上に貢献するためには、まだまだ多くの課題があります。当協会自身が研鑽を続けることはもちろん、国民の皆様及び関係者皆様のご理解とご支援が不可欠です。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

- 本協会の基本的姿勢
 - 一、専門医の質を保証し、その質をさらに向上させる制度であること。
 - 一、国民に信頼され、医療および公衆衛生の向上に貢献する制度であること
 - 一、人々の健康と命を預かるプロフェッショナルである医師が、使命感、倫理性、誇りと公共への責任をもって、自律的に運営する制度であること。

- 源・人材育成機会を拡充すること
- 新たな専門人材を積極的に輩出していくとともにその専門性を高めていくこと

そして、

- ◇ 専攻医のみならず、専門医・指導医の能力や業務の向上につなげること
- ◇ 関係者のネットワークを強め、わが国の公衆衛生システムの向上につなげること

が、並行して進んでいくことが期待されます。

当制度は、ゼロからのスタートとはいえ、社会医

学・公衆衛生には偉大なる歴史と実績があり、言うまでもなく、それらがあってこそそのしくみです。社会医学系の諸活動は、健康・医療に関する科学的なエビデンスを創出し、個々人のみならず国や地域・職域の集団と保健医療システムに働きかけ、人々の健康の増進、疾病の予防や回復、健康寿命の延伸に大きな役割を果たしてきています。多職種との協働とチームワークは必須です。これからも社会医学関係の諸活動に使命感と熱意のある医師が続々と生まれて大きな活躍を果たしていくでしょう。

ところで、当制度は、その実質を次第に充実させ深化させていくものですが、各研修において、実績のエビデンスを抑えておく必要があります。専攻医と指導医の方々、下記について、年度内に確認をお願い致します。

- ・ 研修計画（あるいはその概要）を策定して、研修

手帳に書き込む。

- ・ 研修の実績について、研修手帳への記録を開始する。
- ・ 年度内に開始予定のeラーニング教材の活用を始める。
- ・ 副分野の研修を実施していく。
- ・ 研修の進捗について専攻医と担当指導医（メンター）とで話し合う。

いかがでしょうか？既に進んでいることと存じますが、念のための確認事項です。各研修プログラムの管理委員会でも専攻医個々人の進捗をレビューしていくこととなります。ちなみに、当制度の枠組みは、受動的に対応するのではなく、一つの契機としてうまく活用するのが肝だと言われています。

新しい年を迎え、皆様の益々のご繁栄を祈念致します。

業務執行理事よりの ご挨拶

社会医学系専門医協会設立から1年が経って

おおくぼ やすし
 大久保 靖司

社会医学系専門医協会 業務執行理事（会計担当）

日本産業衛生学会理事
 東京大学環境安全本部教授



新年あけましておめでとうございます。

社会医学系専門医協会が設立されて、1年が経過しました。社会学領域の専門医制度が必要と関係学会・団体が集まり話し合いが持たれ2015年6月に共同提言を公開し、2016年12月5日に本協会が設立されました。その後は経過措置による専門医・指導医の認定作業が行われ、2,500名を超える専門医・指導医が認定されました。また社会医学系専門医研修プログラムでは63プログラムが認定されました。これらの認定作業は社会医学系専門医制度のスタートアップの成否に関わるものであるとともに、社会医学系専門医の質に関わるものであり、加えて初めての認定作業であることなどから、委員会での審査は難事業となりましたが、委員や事務局などの関係者の献身的な努力によって、計画通りにすすめることができました。

私、大久保は、会計担当を拝命しており、本協

会の財務と業務執行のための制度整備に努めてきました。昨年は中期の財務見通しの作成、会員管理システムの整備、本協会の決裁制度の整備などを行い、現在もそれらの制度の細部の設定などを行っています。幸いなことに、多くの方々が社会医学系専門医制度に関心を持っていただき、専門医・指導医となっていたことより、財務的には安定して協会を運営できる基盤ができました。

一方、今後は専門医試験の開催や会員管理システム、研修記録システム、決済システムなどの整備など大型の案件が控えており、優先順位をつけて、これらを進めていくことを計画しています。

本協会、社会医学専門医制度ともにまだまだ基盤作りの状態ではありますが、本年度も本制度の充実を進めてまいりますので、皆様のご理解、ご協力をいただきたく、よろしくお願いたします。

業務執行理事よりの ご挨拶

スーパームーンなニュー・イヤー

 おおつき たけみ
 大槻 剛巳

 社会医学系専門医協会 業務執行理事（広報担当）
 日本衛生学会理事
 川崎医科大学衛生学教授


ハッピー・ニュー・イヤーです。本ニュースレターは、年末年始合併号として発刊させていただきます（広報担当としての一言です）。

大学の居室や実験室のカレンダーも2018年版に架け替えられました。今年は成年だけに『ワン』ダブルな一年に」と記された賀状などもいくつか見受けられております。

暦歴は遷って、でも本邦では年度代わりは3月末、さらに社会医学系専門医協会の事業年度は7月から翌年6月末までとなっております、少々ややこしくなっております。特に、参画の学会などは、それぞれ法人化なども進められており、事業年度の締めタイミングが異なっていることもあって、それぞれの団体・学会から選出していただいております理事や委員会委員の方々の変更なども生じておりますが、協会としての承認なども電磁的手法を用いながら、いずれにしても円滑な運営に努めていくという姿勢となっております。

川崎医科大学のあります吉備地域では、それでも私は自宅の庭から広がって見える岡山平野の東側の低い山並みから昇る初日の出を眺めたのですが、それよりも年始の月はスーパームーン。今年の中で最も月が地球に近付いて、大きく明るく見えたニュー・イヤーでした。SNSでつながっているフォトグラファーの友人は、餅を搗いている兎の表情まで見えそうな写真をアップしておりましたが、初日の出の曙光も、スーパームーンに照らされて研ぎ澄まされた夜の空気も、新年の誓いを新たにさせるようでした。

毎週、ある曜日の朝に、瀬戸内沿岸の干潟の横を某所に車で向かって行くのですが、汐の満ち引き、大潮や小潮など、その時々で異なった情景を見せて

くれていて、自然の変遷と時の移ろいを感じることができています。

そういった感慨の中で、自らが従事している人々の健康に関わる医学医療を映し出してみると、もちろん、個々人が患っている疾病を診断して治療していく臨床医学は、一人ひとりの人生を愛し、その尊厳を貴ぶことに根差していますが、もっと大きな人間愛で、集団の健康増進や健康の不都合の予防を考えるならば、我々の社会医学系の力を、そこに携わるすべての人たちの知恵と技術を結集して高めていかなければならないこと、特に本協会の事業に関わっていく中で、改めて強く感じさせられ、日々その想いを刷新・更新している毎日です。またそこには、我々の教室は実験系でのアプローチを主体にしておりますので、いわゆる基礎医学の土台とその進展もまた、消化して昇華させていかなければならないという想いを強くしております。

今年の4月からは臨床系の新たな専門医制度も開始されます。紆余曲折もあったようですが、本学の附属病院でも研修医へのガイダンスなどが行われるようで、そこに私も顔を出して、一足早く発足した社会医学系専門医制度についても伝えていくことにしております。

いずれにしても次代を担う医師たちが、人々を愛し、その健康に根差した人生の価値の向上のために、限りあるそれぞれの時間と知力と技能を集結していくことで大きなパワーとなって貢献できいくであろうこと。社会医学系専門医制度も、その中の大切な一つの基軸として今年も一所懸命、努力をしていかなければならないなあと、本稿を記していく中で、新たな誓いになりました。

今年も何卒よろしくお願い致します。



今月のお知らせ

※ ロゴマークの決定

2016年12月5日、一般社団法人 社会医学系専門医協会の設立に合わせて、ロゴマークの設定について、理事会を中心に進めてまいりました。2017年9月23日の理事会にて、以下に決定いたしました。

社会医学系専門医協会の英語、the Japan Board of Public Health and Social Medicineの単語の頭文字を用いて、加えて、左の丸は、設立時の12の団体・学会の数とともに、時を越えて社会医学系専門医協会として社会に貢献する時計のイメージも合わせ持つ意味合いになっております。

詳細は

<http://shakai-senmon-i.umin.jp/logo.html>

また使用規程やダウンロード要領についても上記URLに記載しております。

現在、商標登録を進めておりますが、上記WEBの利用要領を読んで頂いた上で、社会医学系専門医関連の発表その他も含めて、PRも兼ねてご利用いただけましたら幸いです。

※ 研修プログラム統括責任者連絡会議

(大阪会場) 終了

(東京会場) 平成30年 1月24日(水) 台東保健所

〒110-0015 東京都台東区東上野4丁目22-8 電話: 03-3847-9401

※ 基本プログラム: 指導医講習会のご案内 (判明分)

【2018年1月】団体名 全国保健所長会

タイトル 全国保健所長会研修会指導医講習会:
行政プログラムに関するシンポジウム

日時 2018年1月29日(月) 16:40~17:40

場所 東京: タワーホール船堀小ホール

【2018年2月】団体名 日本疫学会

タイトル 第28回日本疫学会学術総会:
社会医学系専門医研修会

日時 2018年2月3日(土) 8:00~9:00

場所 コラッセふくしま(第2会場: 4階中会議室401)

URL <http://procomu.jp/jea2018/>

【2018年3月】団体名 日本衛生学会

タイトル 第88回日本衛生学会学術総会:
社会医学教育(仮)

日時 2018年3月24日(土) 13:00-15:00

場所 東京: 東京工科大学 蒲田キャンパス 第

ロゴ



 Japan Board of Public Health and Social Medicine

 一般社団法人 社会医学系専門医協会

色反転



 Japan Board of Public Health and Social Medicine

 一般社団法人 社会医学系専門医協会

1会場 (3号館地下大講義室)

URL <http://www.jsh88.umin.ne.jp/>

【2018年3月】基本プログラム

社会医学系専門医制度 基本プログラム

タイトル 行動科学

日時 2018年3月22日(木) 10:00-17:00

場所 東京:

東京工科大学 蒲田キャンパス 3号館 2階の講義室
備考 ※第88回日本衛生学会学術総会事務局には問い
合わせしないでください※

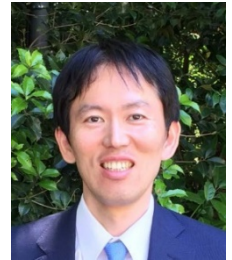
本プログラムは、社会医学系専門医協会が主催し、日本衛生学会が共催するものです。社会医学系専門医制度の単位の一部となるものですが、どなたでも受講できます。受講希望の方は、3月9日(金)までに、参加申込書を社会医学系専門医協会事務局までメールにてご提出ください

シリーズ：WCE2017 参加報告

福島第一原子力発電所視察

 よこみち ひろし
 横道 洋司

山梨大学社会医学講座



東日本大震災時、私の住む山梨県は震度 5 の揺れと計画停電を経験しました。その後山梨大学の疫学実習として、医学部生を宮城県と福島県に受け入れて戴いています。私自身は、仕事のため東北地方に伺うことはありましたが、街の様子を知る機会は何とありませんでした。東北大学の栗山先生にご指導戴き、呉先生の研究班で震災後の乳幼児の発育の研究に関わらせて戴く機会を戴きましたが、その過程であまりに自分は東北の現状を知らないと思うことが多々ありました。今回、第 21 回国際疫学会総会 (WCE2017) の企画として、地震と津波で被害を受けた地域の様子と共に、原子力発電所の事故現場を見学させて戴ける機会があるということで参加させて戴きました。

朝 6 時に集まった参加者は 14 名 (うち外国の方は 3 名)。総会事務局から引率の先生方 3 名、通訳の方と運転手さんで一路福島へ向かいました。高速を走ること 3 時間半、常磐富岡 IC で降りると車窓からは黄緑色ののどかな田園、広い草原が広がります。しかし立ち入り制限地域に近付くと、焦げ茶色に踏み固められ盛り上げられた土、オレンジ色の重機、連なって走る真っ青なダンプカーが目に入ります。制限区域に入ればガラスの奥にマネキンが横たわりジャケットやシャツが雑然と掛けられたまま放置されている紳士服店、ガラスが割れ中は薄暗いカウンターだけのラーメン屋、ベニアが貼られた店舗が沢山ありました。時の流れが止まり、人の営みの消えたかのような街がそこには広がっていました。発電所近くの入退域管理棟でポケット線量計を付け、専用バスに乗り換えて発電所内に入りました。テレビで何度も見た、事故のあった 1-4 号機、事故にならなかった 5, 6 号機を解説して戴きながら、ゆっくりと一周します。発電機建屋の壁に巨人が無理やりこじ開けたような穴がぽっかりと開いています。バスの外では白い防護服とゴーグル、マスクを着用された方が極めて慎重に作業されています。建屋にカバーがされた今ですが、その時もの凄く大きな力がふり注ぎ破壊された、今もそれに対応中である、というのがその現実でした。6 年間非日常的

なことが続き、それに対処するため沢山の人が日々働いている、という光景でした。お話しくださった視察センターの所長さんは、とても誠実にそれらの現実をお話し下さいました。その中の「デブリ (溶けた核燃料) の取り出しは 10 年、20 年、否 30 年かけて方法をこれから開発します。」という言葉に、廃炉作業が終わりの見えない大きな現実であることを感じました。

生まれ育った街がある時こうなったら自分はどうやって生きていくだろうか、会社から廃炉作業を命ぜられたら自分はと言うだろうか。この事故が伝える公衆衛生のメッセージは？帰ったら学生さん達にどういう言葉で伝えたら良いだろうか？自分が生きている間この事故はずっと続くのだ。頭の中をそういった考えがぐるぐると回りました。今もそれらの問いにははっきりした答えが出ていません。情報を得た時に、現状を客観的に把握して、その生活への影響を科学的な目で見ることが出来たら。あの非日常的な風景や圧倒的に大きな力で壊れた建物、そこで黙々と働く人の様子を心に留めながらこれから仕事ができたら、と感じています。貴重な機会を作ってくださった、福島県立医科大学の安村先生、疫学会の先生方、東京電力関係者の方々に深く感謝申し上げます。

